

# 無責任 二十四号

ルサルカのためのソネット

浮島

刺身

清水らくは

どうにか川からたちのぼる  
朝靄が いま憧れを 遮った  
だからぼくは  
もうどこへもいかない

どうしてここらの田んぼには  
音がない ただ自転車があるだけだ  
だから真鍮のベルだけが  
もうたまたまなくすべてになった

いまここで声をあげなよ  
だいじょうぶ  
ぼくだけがいま水を見ている

不安なら川が持つてく  
見てみろよ  
ぼくのでさらに影が濃くなる

見知らぬ男三人がやむを得なく  
一つの部屋に泊まることになり  
何を語るべきか考えた末に  
刺身の話題を選んだという

釣る人と食べる人と山の男が  
一つの部屋で出した結論は  
もはや海のなくなつた世界では  
刺身の話題すら胸を締め付ける

最後に残された部屋の最後の三人は  
架空の刺身を食べながら朝を待った  
誰も知らなかつた夜の静寂の中で

最後に分かち合つた最後の虚無は  
無数の涙で新しい海を作つた  
誰も知ることのできない永遠の翌日



無責任 二十四号

責任者 清水らくは

副責任者 浮島

発行 無責任 zone

発行日 2014年2月1日